

やましる

2007年9月

第4号



普及センターだより

特集

全国に誇る地域特産品の振興

山城地域の特産品である「宇治茶」「京タケノコ」「京野菜」等は、全国に誇るブランドです。より一層のイメージアップと生産振興のため、消費者に応援していただける安全・安心な農産物づくりはもとより、担い手の育成等生産体制の充実や生産性の向上について支援を行っています。

第60回 関西茶品評会において 山城地域の出品茶が4部門で “農林水産大臣賞”を独占!

平成19年8月1日～3日にかけて開催の第60回関西茶品評会審査会（開催地：京都府宇治市）において、山城地域から出品された茶は、普通煎茶、かぶせ茶、玉露、てん茶の4部門（全5部門中）で農林水産大臣賞（第1位）を受賞しました。

入賞された皆様おめでとうございます。

なお、褒賞授与式は平成19年10月20日（土）に宇治市文化センターで行われる予定です。

★農林水産大臣賞（第1位）入賞者（敬称略）

	出品者名
普通煎茶	京都やましる農協南山城村支店茶業部会 このれいこ 木野 怜子（南山城村）
かぶせ茶	おくたにてるお 奥谷 輝夫（宇治田原町）
玉露	京田辺玉露生産組合 おおつじいわお 大辻 伊和夫（京田辺市）
てん茶	木津川共同碾茶組合 きくおかゆういち 菊岡 祐一（城陽市）



▲適確な蒸しで良質生産

★産地賞

	普通煎茶	かぶせ茶	玉露	てん茶
市町村名	南山城村	宇治田原町	京田辺市	宇治市

京都府山城北農業改良普及センター

〒610-0331 京田辺市田辺明田1 TEL.0774-62-8686

京都府山城南農業改良普及センター

〒619-0214 木津川市木津上戸18 TEL.0774-72-0237

ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/fukyu/からどうぞ>

● えびいもブランド産地の拡大



▲高品質生産に向けた土入れの方法を研修しました

山城地域では、ブランド認証産地である京田辺市、精華町、木津川市加茂町で、府内販売額の約7割が生産されています。最近では1月・2月の年明けも需要があり、京都市場から出荷量の拡大が期待されています。

昨年度、旧木津町と旧山城町の栽培者が研究会を発足させ、栽培技術の向上のため、研修会等に取り組みました。

今年8月には、有利販売に向け、木津川市山城町がブランド認証産地に認定されました。

また、茶など他品目と組み合わせやすく、八幡市や宇治田原町でも新たな栽培者が増えていますので、今後の生産拡大が期待されます。

● 乗用型摘採機で覆い下茶を省力管理



▲平成19年5月 初めての摘採が順調にすべり出しました

茶摘み作業の省力化と効率化のため、煎茶園に導入されてきた乗用型摘採機が、玉露やてん茶園に導入され始めました。

覆い下茶園専用に開発されたこの機種は、座席が低く、小型で小回りが利くなどの特徴があり、普及センターでは労力軽減効果と合わせて、作業精度の向上や経済評価の調査・検討を実施しており、覆い下茶の品質向上と省力化に大いに期待しています。



● 西窪 武氏、あけみ氏が全国農業コンクール名誉賞に輝く



南山城村の西窪武さんは、7月19日に愛知県豊橋市で開かれた第56回全国農業コンクール全国大会(毎日新聞社・愛知県主催)の種芸部門に出場し、名誉賞(農林水産大臣賞)を受賞されました。

この大会には、全国から応募の43人のうち審査会で選ばれた都道府県の代表20名が参加しました。西窪さんは「日本で唯一の牧草ビジネスを開拓～動物園用飼料生産・販売の新農業分野～」と題し、現在の経営に至る経過と、今後の展開について発表を行い、審査会を経てみごと受賞に至りました。

◀経営の開拓と発展に大きく貢献した妻あけみさんとともに壇上で表彰される西窪武さん

●京のやましろ田舎暮らし実践プログラム実施中



▲地域で栽培した麦でうどん打ち交流会
一緒に試食しながら懇談しました(19年度)



▲バーベキュー交流会。この後、
蛍の乱舞を鑑賞しました(18年度)

田舎暮らし希望者と地元の方との交流や受入を通じて地域の活性化を推進するため、南山城村の4集落、和束町の1集落で、5つのプログラムを実施しています。

各プログラムで作物は違うものの、地元の方と一緒に農作業を体験し、交流会で懇談しながら相互の理解と信頼関係を深めることとしています。

今年で3年目になり、通作や移住希望者も育ってきており、地域での新しい風となっています。

●安心・安全な農産物直売所に向けた研修会



▲「栽培履歴による出荷チェックの姿に、お客さまは安心感を持たれるようです！」

7月13日に、栽培履歴の記帳を広め、安心・安全で特色ある直売所とするため、関係者等35人の出席のもと山城地域農産物直売所研修会を開催しました。

講師のJA大阪泉州の相馬常務さんは、JA直営農産物直売所「こーたりーな」の取組みから、規模は大きくとも使用農薬等の確認をはじめとする、消費者を大切にする姿勢が基本と話されました。

今後は、山城地域の直売所においても、これまで以上に消費者の視点に立つことの大切さを意識し栽培や表示、品揃え、サービス向上の取組みを進めていきます。

●若手、担い手の研修会を充実



▲雑草防除に関する基礎知識を熱心に講習しました

山城管内の就農5年以内の農業青年等を対象に、基礎知識の習得を目的とした「山城地域・担い手養成農業基礎講座」(全9回)を開講し、16名の受講者がありました。今年度は、普及センターからの講義に加え、指導農業士を講師に迎えて、経営管理の講話や現地視察等を計画しています。

併せて、受講者の要望をもとに茶、野菜、果樹の各品目ごとに「栽培基礎講座」を開講し、栽培技術の向上について支援していくとともに受講者同志のネットワークづくりも進めていきます。

タバココナジラミの 防除対策ポイント

1 発生は減少も予断を許さず

普及センターでは、トマト、トウガラシ、トルコギキョウ等の施設ハウスで4月から8月まで月2回の発生定点調査を行いました。管内の発生は平成18年秋に比べ格段に少なくなりました。

2 早期の発生確認と防除

今年8月までの調査では、気温の上昇とともに頭数は増加しましたが、早期に発生を確認し、対策がとれたハウスでは被害が少ないことがわかりました。



▲実証1 0.4mm防虫ネット+黄色粘着シート

3 的確な防除のポイントは

- ①除草を行い寄作物を除去する。
 - ②0.4mm目合いのネットを設置する。
 - ③粘着トラップ等で初期発生を早期に確認する。
 - ④適期に防除する。
- 以上、「入れない、増やさない、出さない」ことがポイントです。

「ミカントゲコナジラミ」の防除を!

「ミカントゲコナジラミ」は、年4回発生し、10月中下旬が最終発生となり、産卵・ふ化をへて、幼虫で越冬します。

そして、翌年春(4月下旬頃)に羽化して、摘採時期に成虫となって飛びまわります。

★防除のポイント

成虫発生ピークから1~2週間後(若齢幼虫期)が薬剤防除のタイミングです(1回目

6月上中旬、2回目8月上中旬、3回目9月下旬~10月上旬、4回目11月上中旬)。幼虫は、うね間のすそ枝や葉層内部の古葉の葉裏に寄生します。葉裏に薬剤が十分にかかるよう、丁寧に散布してください。

その他の防除としては、成虫発生前に秋整枝やすそ刈りを行うことにより、幼虫の寄生葉を除去でき、密度を抑制する効果があります。

ポジティブリスト制度と 農薬の安全使用

すべての食品に農薬等の残留基準が設定され、その基準を超える食品の流通・販売が禁止されました。

農薬を使用する時には残留基準を超えることのないよう使用基準を守りましょう。

農薬を使用する時には周囲に飛散することのないよう気をつけましょう。

1 農薬使用基準

- ①適用作物
- ②使用方法
- ③使用倍率、使用量
- ④使用可能時期
- ⑤成分ごとの総使用回数



農薬使用後は必ず記帳しましょう

2 農薬飛散防止対策

- ①農薬の使用前後に散布器具を洗浄
- ②近隣作物に飛散しないよう風向に注意